巻頭言

# 二〇二二年頭所感

一般社団法人　土地改良建設協会　会長
押味（おしみ）　至一（よしかず）

謹んで新春をお祝い申し上げます。先ずは、会員各社の新年の益々のご発展と現場の安全をお祈り申し上げます。

昨年は、コロナウイルスに明け、コロナウイルスに暮れた年でございました。皆様におかれましても、感染拡大防止のため、社会経済活動や個人生活において様々な制約が生じ、大変なご苦労が続いたことと存じます。ワクチン接種が大いに進んだ効果もあり、新規感染数は低い水準にございます。このまま新型コロナウイルス感染症が終息し、社会全体に漂う沈鬱感が消え去り、明るく前向きな一年となることを願ってやみません。

一方、コロナとの闘いはDXという新たな成長のステージへの扉を大きく開けてくれた側面もございます。ICTを駆使したweb会議やテレワークが日常化していますが、このようなことは二年前には想像も出来ないことでした。アフターコロナ時代には、DXによる生産性の向上と働き方改革の両立を目指して行かなければなりません。私は建設業と農業は似たところがあると思っております。互いに3K産業（きつい、汚い、危険）と呼ばれ、担い手不足に苦しんできました。しかし、建設業ではICTによる遠隔施工や自動施工により3Kは過去のものになりつつあります。また土木の世界ではCIMが三次元設計、三次元施工管理だけでなく、工事後の施設管理にまで適用されようとしています。農業でも、農業機械の無人走行や遠隔水管理などが実装されつつあると聞いています。DXにより互いに3Kから脱し、新3K（給与、休暇、希望）に「かっこいい」を加えた新4Kを目指し、少子化時代にも生き残れる魅力ある産業として生まれ変わっていきたいものです。

このような業界の魅力向上により、若者に建設業界を目指してもらえたらと思いますが、足元の現状といたしましては、発注者においても、受注者においても、技術者不足は深刻な状況にあり、また入札契約手続きにおいて、双方とも非常に多くの人員と時間を要しているものと認識しております。これまで当協会では、様々な問題の解決のため、各地方農政局の皆様と意見交換会の場を持たせて頂き、その成果として多くの改善が図られてきました。この取組を継続、深化させて、入札契約手続きをはじめとした課題に対し、受発注者双方にとってメリットある更なる改善に向けた意見交換をさせていただけたらと考えております。関係各位には引き続きのご協力を賜りたく何卒よろしくお願い申し上げます。

山積する社会課題の解決に向けて、当協会が果たすべき役割は大きいと思います。会員の皆様とともに取り組んで参りたいと思いますので、当協会の活動に対しさらなるご理解とご支援をいただきますようお願いいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。